

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	古高取を伝える会	福岡県直方市	鈴木 由紀夫	佐賀県立九州陶磁文化館館長	高取焼基礎研修講座「有田焼の歴史に学ぶ」	令和4年5月15日(日)
	事業内容 名称について唐津焼は江戸時代の肥前陶器の総称であり伊万里港から唐津焼が出荷される際に名称が伊万里焼となり、肥前時代の総称となった。 高取焼は陶器で、主な重要は茶道具で朝鮮からの輸入品、有田焼は磁器で中国からの輸入品である。唐津焼は産業品で雑器が主に登り窯で大量に生産された。高取焼も有田焼も朝鮮陶工の技術によるもの(有田焼の色絵技術は中国から)で1600年代に盛んに創業していた。 佐賀県内の登り窯跡が一番多いところは武雄市で陶器生産窯唐津焼、陶器磁器生産窯伊万里焼、磁器生産窯有田焼である。次に有田町伊万里市と続く。武雄鍋島家は佐賀藩の御用窯として唐津焼伊万里焼を献上していた。				事業成果 高取焼は黒田藩の御用窯で茶陶重視に生産された。そして茶人にたち愛用されてきた。伊万里焼有田焼は佐賀藩の御用窯で雑器中心に広い範囲で焼かれていたことが分かった。 共通点は朝鮮陶工により開窯されていたことだが、高取焼の茶道具や千利休古田織部などのかかわりの歴史は唐津焼とは相違点かなと思う。 唐津焼伊万里焼の歴史を奥深く学ぶことで、高取焼の魅力を再認識することができた。小学校焼き物教室の授業に生かしていきたいと思う。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	米沢街道地域づくり検討会	新潟県岩船郡関川村	①佐藤 正三郎 ②前山 みゑ子 ③田村 舞子	①(公財)米沢上杉文化振興財団学芸員 ②米沢市おしよしなガイドの会会員・前会長 ③関川村役場職員(学芸員)	「米沢街道」に関わる関川村の歴史掘り起こしによる村の活性化	令和4年6月10日(金)・11日(土)
	事業内容 (1)講演会 ①「席の三左衛門さまと米沢藩」講師 田村舞子氏 関川村に現存する渡辺家と米沢藩とのかかわりの歴史について講演。 ②「子文書と文化財からの新発見」講師 佐藤正三郎氏 R3.4～6、上杉博物館で開催された特別展「上杉鷹山の生涯」において事前調査・借用展示した、渡辺家の文化財(刀剣、書画、古文書)をきっかけに、調査・判明した関川村と米沢との人の交流や文化交流について多くのエピソードを紹介する形で講演。 (2)米沢藩関係の村内史跡調査 米沢藩と渡邊家の金融関係や、米沢藩が関川村を一時、幕府からの預り領としたこと、戊辰戦争時、村内が越後側への侵攻口で藩の拠点となったこと等によるゆかりの個所を案内。 ③親子学習会 講師 前山みゑ子氏 今夏で7回目となる米沢から米沢街道を歩き渡辺家をゴールとする「関川子どもチャレンジ100」に参加予定の関川小の児童とその親に渡邊邸の前座席を会場に米沢と関川村の歴史を分かりやすく講話、その後「せきかわ歴史とみらの館」で関連文化財を見学				事業成果 5月の大型連休明け、新型コロナウイルス感染症の拡大の危惧があり、今回のメインであった講演会では宣伝を自粛、人数制限で募集したが幸い減少傾向であったことから会場でのコロナ対策を実施したうえで開催した。 2人の講師の講演内容から参加者に村に誇れる歴史があることを十分に伝えられたと考えている。 今後、参加された行政機関および渡邊毛保存会の理解と協力を得て、目標とする渡辺家の所有する文化財を歴史館で展示、その解説会の開催企画の働きかけや、米沢市民との交流による活動で、村の活性化の一助につなげていきたい。 2人の講師を村内の史跡に案内、助言をいただいた。今後、これら史跡に関わる資料の提供や助言を受け、観光面での活用に生かしていきたい。 親子学習会については、参加者に米沢街道を歩く歴史的意義を少しでも理解させることができたと思っている。今後、引き続き子どもたちの活動を支援していきたい。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①片岡 龍 ②三浦 忠司 ③柴垣 博孝 ④山内 輝雄	①東北大学文学研究科教授 ②八戸歴史研究会会長 ③八戸学院大学教授 ④昌益村村長	安藤昌益資料館開館13周年記念「安藤昌益と地球を癒す農」	令和4年11月5日(土)
	事業内容 「安藤昌益没後260年生誕320年記念」安藤昌益資料館開館13周年記念シンポジウムは「安藤昌益と地球を癒す農」をテーマに取り上げた。 基調講演の片岡龍教授は、古来、アジアには「上医は国を医し、中医は人を医し、下医は病を医す」という語があるが、地球を癒そうといった発想は類例を見ない」と述べた。 シンポジウムは、コーディネーターに八戸歴史研究会の三浦忠司会長、パネリストに東北大学大学院の片岡龍教授、八戸学院大学の柴垣博孝教授、昌益村の山内輝雄村長。 柴垣教授は、全文が漢文の「詩文聞書記」を12年かけて解説し、昌益が八戸に来たいきさつなどを語った。昌益は「詩文聞書記」という書物を耕していたのではと推測した。山内輝雄村長は、自らが無農薬で作物を作る直耕をしなが、昌益が生きていければ私に「健康な野菜をつくりなさい」と求めるだろうと熟く語った。				事業成果 コロナ禍で、丸2年間シンポジウムが延期となり、久々に13周年のシンポジウムが開催できたことに、来場した方々から、安堵とともに、非常に新鮮な感じがしてうれしいとの感想をいただいた。 農業は、人間の命を根底から支えていく一番重要な役目を持ち、それは人間のみならず地球を癒す壮大なものであることを、医者だった安藤昌益が、今から300年も前に、北東北の大地に根差した思想を生み出していたことに驚きを隠せない。 シンポジウム後、来場者とパネリストとの活発な意見交換は、安藤昌益の壮大さをしみじみと認識させるものであった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	戸畔の会	三重県度会郡大紀町	岡田 登	皇學館大学名誉教授	大紀町ふるさと案内人ブレ！養成講座(錦編)	令和4年5月8日(日)
	事業内容 岡田先生の講演は専門的な立場から、分かりやすく歴史を紐解いて教えていただき、私たち地域の活性化に取り組む団体の進む方向まで指導していただきました。地元の歴史を掘り起こし、歩き・学ぶ取り組みとして「魚の道100km」冊子の作成を機に案内人の要請に取り組むことになりましたが、今後は錦だけでなく大紀町全体の歴史に精通された岡田先生に引き続きご指導をお願いする予定です。地元の町民自身が関心を持ち、語っていくことの重要性を教えてくださいました。				事業成果 錦地区に多く出土している貴重な鏡や勾玉、なぜこの地にあるのか？貴重なものが作られた時期が日本の歴史上、船を操り外洋に精通した海人族を調達した都人がもたらしたものでしょうとの先生の説を聞き、なるほどと思いました。それと同時に古代のわが地の人々は素晴らしい働きをしていたことに感動しました。追及して調べていけばもっといろいろ分かるかもしれません。地域の若者や子どもたちにも知ってもらい、自慢できる地域を案内できるようにしてほしいため、引き続きこの事業を行います。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	道雪会	福岡県糟屋郡 新宮町	木島 孝之	九州大学大学院人間環境学研 究院都市・建築学部助教	道雪会 春の講演会 郷土史「大正14年島津氏北進時の岩屋城・宝満城・立花山城合戦を再考する」	令和4年5月29日(日)
	事業内容				事業成果	
	新宮町の地元立花山城と岩屋城・宝満城など筑前国をめぐる攻防の中でも最も重要な戦いであった天正14年(1586年)の合戦について大友氏の敵側薩摩の島津側から第1次史料である『上井寛兼日記』に基づき一般に流布している見解に一石を投じた。				今回は新型コロナウイルス感染症への危機感も少し低下したのか、又は令和4年3月13日の講演会が成功したのか予想を上回る来場者があって盛り上がりを見せた。講演者の新たな視点による問題提起によって益々郷土史について関心が高まったことは間違いない。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	但馬おじろ塾	兵庫県美方郡 香美町	①前嶋 英雄 ②木村 幸一	①前日本海新聞地方部記者 ②淡路ふるさと塾代表	山間僻地農業再生計画	令和4年4月23日(土)・24日(日)
	事業内容				事業成果	
	棚田は本来急傾斜地であり地形に沿った地域の農耕地であります。現代に於いては非効率的で作業リスクも高く特に高齢者には小型機械しか稼働できない農耕地での労働負担も多い。これらのことから、とかく敬遠されがちな棚田を魅力ある地域の宝にする為には単に作物のみを作るだけではなく人を呼び込み、来訪者にはガイドとなり苦しさや楽しさを語りながら農産物への販売と交流を促す活動が必要不可欠であろうと考える。そのためには環境整備や農産物への知識の習得、更には販売の為のノウハウも必要であると思われる。この地に於いて就農人口は30%と推測ですが現実には1ちゃん(高齢夫婦の何れかが従事)農業の息を出ていない。これでは農業者とは言えず百姓もやっていますのレベルだと思います。経営については大方の家庭では何らかの年金が所得の主流を占め農家としては自給自足程度と思われるが今後更なる交流と生産や販売で所得を増やすことが次の意欲につながる事へ期待します。				狭い土地での生産効率は悪くそれなりにコストも高い中山間地であるが、農家では賑わいの場の創出が特に近年見受けられない。本来、農業とは群れて作業をすることは無く、むしろ個人での作業効率は高いと思う。人口減少化での交流は課題も多いが、過去30年間で都市との交流実績を踏まえ今一度掘り起こし挑戦を試みる必要がある。単に懐かしい懐古調ではなくお互いの心の交流も大切でしょう。今年秋以降は小麦の輸入も心配されるがいよいよコメの出番が来るかも党世界の食糧事情は大きく変わるかもしれない。少量生産の農産物ではあるが、より一層の美味しいものと物語性のある農産物による高付加価値化を目指したい。早速、農畜産物の販売計画打ち合わせ会議を立ち上げて夏以降にはその成果を期待したい。先ずは会員間でのネットワークの連携強化を図り、お互いの情報を持ち寄り採算も検討しながら労働の喜びを体感したい。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	ウミガメネットワーク三重	三重県鈴鹿市	伊藤 終也	紀宝町ウミガメ公園飼育員	環境学習会「ウミガメ公園のウミガメたち」	令和4年5月29日(日)
	事業内容				事業成果	
	・ウミガメは絶滅危惧種の動物である。 ・紀宝町ウミガメ公園は、ウミガメの飼育と漁業で捕まったウミガメの保護をしている。 ・本所で産卵するのは、アカウミガメだけである。 ・現在、アカウミガメの産卵は減少している。 ・ウミガメの日々の生活の内容について、詳しく話してもらった。				ウミガメの話聞いて、実際にウミガメに触ってみて、ウミガメを身近な存在だと感じてもらったと思う。ウミガメの首や四肢の裏側等は柔らかく、海岸に流木が多く打ちあがっていると傷つく可能性があることも理解してもらった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	本のソムリエ団長・世話人会	福岡県飯塚市	本のソムリエ団長	教育関連講演・読み聞かせ・経営セミナー講師・翻訳家	読書で広がる世界ー講話や読み聞かせ活動を通してー	令和4年6月15日(水)～17日(金)
	事業内容				事業成果	
	三つの幼稚園、三小学校では、団長さんオリジナル世界旅行記動画、絵本「けいけい」「はやく大きくなりたい」「もったとべるのだあれ?」「ヨゼフのコート」「夜のあいだに」「ことばコレクター」等を笑顔に合わせ、電子黒板等に拡大したり、じかに見せたりして読み聞かせされた。本を題材に夢を持ち、夢を叶えたりするために努力することや、友達、先生、家族を助けたり、やさしくしたりすることを伝えられた。また、誰かが陰で人々のために頑張っていることを伝えられた。登場人物の気持ちに合わせた読み方や、子どもとのやり取りで子どもたちの集中力、興味関心を非常に高められた。特に絵本「もったとべるのだあれ?」では子どもたちを十分に惹きつけられ子ども達の主体的な発表を多く引き出された。地域の皆様への講話においては、「市の間公民館文化講演会」ではテーマ「大人の学び」、鯉田交流センターではテーマ「ウクライナ(ロシア)の文化について」の講話であった。市の間公民館では、歳を重ねてからも学び続けることの大切さを話された。鯉田交流センターでは、実際に行かれたロシア・ベラルーシ・ウクライナの画像を中心に文化・芸術・食文化の話がされた。決して戦争は称賛しないが情報を自分なりの考えで選択してとらえる力が必要だと言われた。				コロナ禍の3日間という短期間に485人の方が参加され、じかに団長さんの話を聞くことができた体験が、大きな成果の一つと考える。子どもたちは「けいけいばさんのようにやさしくなりたい」「夢をあきらめない」「当たり前に過ごしている陰に一生懸命働いてくださっている方がおられる」「本を読むのが楽しかった」「団長さんまた明日来てほしい」「団長さんのように大リーグ見たい」など話していた。また幼稚園児童は全身で読書の楽しさを表現していた。読書の興味・関心を高めたことや自己肯定感を高め、夢を叶えることや自分や人を大切にすることを考える機会となったと思われる。先生方も、より子どもの意欲を高める読み聞かせにつおて考えさせられたを感想を述べられた。地域の皆様も「コロナ禍で、団長さんの話で生きやすくなりました」と話された。素晴らしい世界の文化に触れ、心豊かに学び続けることの楽しさを味わわれたようだ。幼稚園、学校、地域の皆様より「また来てほしい」という強い要望をいただいた。以上のことより、今後も本のソムリエ団長の読書活動を継続したいと考える。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	一般社団法人ママとね	静岡県三島市	①影山 知明 ②土肥 潤也	①株式会社フィスティナレン代表取締役/クルミドコーヒー店主/ミュージックセキュリティーズ株式会社COO ②一般社団法人トリス代表理事/内閣官房子ども政策の推進に係る有識者会議構成員/みんなの図書館さんかく館長	「ゆっくり、いそげ」の組織経営～多くの人を巻き込み発展する、街づくりのために～	令和4年5月28日(日)
	事業内容				事業成果	
	第1部 影山知明氏 カフェ経営での具体的事例をあげつつ、提唱する経営理念を講演。人にはともと「消費的人格(take)」と、「受贈的人格(give)」の両方があり、目先の利益より、受贈者の人格を引き出すような仕組みを心掛けた方が長期的には繁栄する。利用し合う関係より支援し合う関係へ。また、目的志向(工学的アプローチ、△)は、人や店舗経営に適用すると、人を手段化するようになる。植物が環境に応じて育つように成長する。樹形図のような生命論的アプローチ(▽)を大切にすべきである。第2部では街づくりについての講演。一箱本棚オーナー型私設図書館の考案者土肥潤也氏は、図書館の着想の原点は公共圏であり、参加者に上下がなくフラットで、かつ街の人が自事としてとらえる必要性を説いた。影山氏からは、支援し合うコミュニティで、自然と集まる自己決定による参加の場の重要性が説かれた。				開催後に集められた、講師2名へのメッセージカードでは多くの方が熱心に記入し、今回の講演が多くの方参加者にとって実りあるものとなったことが伺われた。また、講座全体へのアンケート感想でも、有意義な講演となったことが示唆された。実行委員内では、講座終了後も有志による影山氏オーナーとつとめるカフェ(東京国分寺市)への視察、講座後に公開された影山氏のインタビュー記事の共有、さいい、当団体主催で新たに読書会「続・ゆっくり、いそげ(影山知明著)」も企画され既に満席となっており、講演会をきっかけに、その後も学びが継続している。	

NO		所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
10	特定非営利活動法人市民創作「函館野外劇」の会	北海道函館市	田邊 克彦	演出家	市民創作函館野外劇セリフワークショップ開催	令和4年8月6日(土)・7日(日)
	事業内容				事業成果	
	このワークショップはコロナ感染防止のため、1年間公演中止を除く連続6年間開催されているもので、毎年実施の野外劇オーディション合格者など出演者の演技工場を主目的に、野外劇公園参加可能者を対象とし、函館野外劇の台本を元に演技、発声指導を受けた。				野外劇のオープニングからフィナーレ14場面の演技充実のため、個人演技の修練と発声練習を行い有科公演に耐えるレベルを達成した。また、市民ボランティアが創り上げてきた講演を今後も継承し、地域の歴史を伝えていくことにより、地域活性化に寄与した。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	特定非営利活動法人福島就労支援センター	福島県福島市	引田 さいこ	キャリアコンサルタント	ワークライフバランス・キャリアについて見直す	令和4年6月19日(日) 令和4年7月3日(日) 令和4年8月21日(日) 令和4年10月16日(日) 令和4年11月5日(土)・20日(日)
	事業内容				事業成果	
	ワークライフバランス及び女性のキャリアに関するセミナーを合計6回開催した。セミナーは各回違った内容を実施し、気になった内容のセミナーだけを参加できるように工夫し、集客増加に努めた。セミナーでは講師自身のワークライフバランスの保ち方などの講義のほか、女性に必要なコミュニケーション術やビジネスマナー、好印象の話し方等の内容で講義し、女性が活躍するための支援を行った。また、アナウンサーのご経験を活かし、発声練習や話をする上での順序(PREP法等)や言い換えの仕方那古野アドバイスも行い、好評を得ることができた。				6回の講座で計48人の参加者へ支援することができ、セミナー後のアンケートでは「とても参考になった・参考になった」方が96%と、高い満足度を得ることができた。セミナー後には講師に対し個別の悩み相談をする、別日にカウンセリングを希望する方、継続的にセミナー実施を希望される方もいらっしゃったことから、参加者へ良い影響を与えることができた実感している。セミナーを通して個々の課題・問題に対し支援する機会を創出できたことにより、女性が活躍する地域づくりに貢献することができた。想定した人数の予約はあったが、コロナウイルス長期化の影響もありキャンセルが出てしまい、出席者は減少した。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
12	みあさの森	長野県大町市	井上 まゆみ	看護師	からだのすばらしさとワクチン	令和4年6月19日(日)
	事業内容				事業成果	
	子どもたちの体にとって必要なことは何か？免疫力を高める方法とは？3才までに常在菌をたくさん増やしていくこと。ワクチンは良い悪いではなく、きちんと理解すること。理解したうえで選択していく。大切なことは、自分の身体を信じていくこと。				アンケート結果より「聞くことができてよかった」「皆に伝えたい」という意見が多く聞かれ、ほぼ参加者は母親だったが、託児もあり、3時間しっかり開けたことでの満足感があつた。帰り際の笑顔も印象的。また、祖父母や歯科医師も来ており「興味深い内容だった」との声も聞かれている。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	釧路地方の地名を考える会	北海道釧路市	①渡辺 隆 ②高橋 基	①アイヌ語地名研究会事務局長 ②アイヌ語地名研究会幹事	アイヌ語地名の一考察「タブコブを多面的に考える」	令和4年7月2日(土)
	事業内容				事業成果	
	現地調査と学習会の2日間は好天にめぐまれ、参加者47名で学習会が行われた。タブコブ名はアイヌ語であることから、歴史とアイヌ語地名辞典のタブコブ記載、疑問点について説明された。松浦武四郎が記した24,000余りの地名の中に50か所のタブコブを記録しているが、釧路地方では自身が現地に行かず、アイヌからの聞き取りで書いたものもある。著名な8種のアイヌ語辞典の中には、あえて載せないのか、地名が消えたのか、タブコブが記されていないという大変重大な事例も指摘された。タブコブ名を分解し、言語と和訳についても提言、旧アイヌ語なのか、また時点にない和訳もある。奥が深い大地の言葉を考える学習会になった。				釧路川沿いタブコブとリイタブコブについて、『松浦戊午日誌』『松浦山川地理取調図』に書かれている地形説明と地図で確認を行った。講師の説明で最も驚いたのは、「リイ」がつくタブコブ名はこの地域だけのものだと分かった。最近の研究では、従来の「独立した孤山」という形態は例外的なもので、「双頭の山」と再考した新解釈が登場している。学習会前日の現地調査で、もう一つのタブコブと思わせる形態的特徴を持つ山を複数確認したが、しぼり込めなかったが、今後の研究で解明されることだろう。ロシアを意識した北方の保全に、アイヌの同化政策が行われた。コタンの衰退に拍車をかけ、タブコブとアイヌ語地名は消えていったという。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
14	みやぎボイス連絡協議会	宮城県仙台市	①室崎 益輝 ②前田 昌弘 ③真壁 さおり ④佐藤 翔輔 ⑤稲垣 文彦 ⑥小松 理虔 ⑦宇都 彰浩	①神戸大学名誉教授 ②京都大学大学院人間・環境学研究科准教授 ③社会福祉士 ④東北大学災害科学国際研究所准教授 ⑤NPO法人ふるさと回復支援センター副事務局長 ⑥ヘキレギ舎代表 ⑦宇都・山田法律事務所代表弁護士	みやぎボイス2022	令和4年7月2日(土)
	事業内容				事業成果	
	「空間とコミュニティ形成～空間がコミュニティ形成に果たす役割～」災害が日常になった今一層レジリエンスを考える」「復興検証のテーマ～様々な立場から考える復興検証の目的とその中心～」「被災者の住まいの再建と復興事業～居住選択の自由と災害危険区域～」「災害復興における「地域」と「当事者」の範囲を考える」以上6つのテーブルテーマに則り、各分野の学識経験者や専門家である講師の方々との知識・経験をもとに、お考え等についてご講演いただきました。				復興まちづくりに関する具体的テーマについての議論と、一昨年から重点的に取り組んできた復興検証で熱気ある意見交換が実現しました。また、断続的に発生する各地の自然災害からの復旧復興への助言の側面、と屋内未来に発生するであろう南海トラフ地震等に対する事前復興への地権の共有という側面においても、みやぎボイスでこれからも継続し通津に意義を確認することができました。学術的探究とは違う、みやぎボイスで発せられるそれぞれの現場と当事者からの生の声には「ポスト現代」を探る可能性とそれへの期待がありました。各テーブルで議論した内容をまとめた報告書を発行いたします。これまで10回と会を重ねる毎に発行した報告書は、貴重なアーカイブであり、継続している成果と考えております。	

NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
15	一般財団法人淡路島くにうみ協会	兵庫県洲本市	さかなクン	東京海洋大学名誉博士・客員教授	淡路島くにうみ講座(第1回)	令和4年7月3日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	当講座は、当協会の主たる事業として、島内外の人々に、淡路島のすばらしい自然、歴史、文化等を広く知っていただくとともに、淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりを目的として年6回程度開催している。 今回は、テレビなどでおなじみのお魚博士「さかなクン」をお迎えし、淡路島の身近な魚や水環境をテーマにお魚クイズ等を交えながら講演いただいた。 会場では、模造紙に海の生き物のイラストを描きながら説明し、参加者ひとりひとりが魚の特徴や生態について理解を深めることができた。 また、講師自らが各地の海や川に足を運び、水産資源の持続可能な取り組みをした活動映像を紹介したほか、海洋ごみの増加による環境問題にも触れ、ごみを出さないためにも食べ物を残さず食べる等できることからやっつけこうと子どもを中心に若い世代へメッセージをいただいた。				終了後のアンケート結果をみると、9割以上の方が「大変満足」または「満足」と回答している。また、60台以上の高齢者の参加が多い他の講座に比べ、40代以下の方が半数以上を占め、さかなクンの知名度、人気もあって親子連れや初参加も約8割と多かった。新たな参加者層の開拓につながったことに加え、地元の魚や環境問題への興味・関心を深めていただけたと評価している。 さらに、参加者募集の際、要約筆記や手話通訳を希望すれば準備することをチラシに明記し、結果希望者10名に参加いただいた。 以上の結果を踏まえ、今後も、情報配慮を行うイベントとして多くの仮名に参加いただける講座を目指すとともに、引き続き当講座の目的である淡路島の地域活性化と淡路を担う人づくりに向けた講座を開催していきたい。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
16	特定非営利活動法人くるくるネット	北海道室蘭市	①三浦 孝之 ②吉田 麻里奈	①(一社)道南eスポーツ協会代表 ②(一社)道南eスポーツ協会事務局長	eスポーツ講演会および体験会	令和4年7月9日(土) 令和4年9月10日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	講演内容としては、eスポーツはルールがあり「試合」として行われる。練習・マナー・ルール・作戦が大切であること。eスポーツの役割としては福祉・教育・社会分野で健康ゲーム講座・障がい者とeスポーツ、eスポーツ部、コミュニティの確率があること。特に福祉分野では認知症予防・脳の活性化、障がい者とかかわりでは、努力すれば健常者と同様の活動ができること。教育分野ではゲームが好きなだけでも活躍の機会が増えること。地域のためにeスポーツの楽しさを伝えることができること、企画・運営するイベントができることを学びました。				eスポーツを窓口にして子どもたちにアプローチすることで、子どもたちの論理的思考や問題解決力・コミュニケーション力を身につけることのきっかけを作りました。世間的にeスポーツは単にゲームである認識が強いですが、福祉・教育・社会分野で活用ができることを実技を通じて勉強するk十ができました。参加者には練習・マナー・ルール・作戦が大切であることを強調しました。eスポーツ事態はまだ発展途中ですが、さまざまな可能性があることを理解することができました。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
17	木曽子育てまちづくりの会	長野県木曽郡上松町	①金田 英里 ②半坂 りか ③田上 節子	①料理人 ②管理栄養士 ③国際コーチ協会認定ボテニシャルコーチ	弁当の日を広めよう	令和4年7月17日(日) 令和4年8月10日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	金田氏、半田氏の指導の下、小学生は弁当作りを教わった。7/17のメニューはおにぎり、卵焼き、ウインナー、ポテトサラダ。子どもたちが自分で作り、玉ねぎなどを苦闘しながら頑張っていた。10/30のメニューはミートボール、野菜の塩もみ、サツマイモのきんぴら、こはも。楽しかったという感想が多かった。 大人は、他の上による「弁当の日」の書籍紹介、絵本「はなちゃんのみそしる」、子どもが料理に興味を持つ絵本の紹介を行った。10/30には「家庭で作る料理ってどんなイメージ?」をテーマに座談会を行い、ざっくばらんに話をした。				親としては「子どもに料理ができるようになってほしい」と願うがなかなかきつかりがなかった。「弁当の日」イベント以降子どもが台所に立つ頻度が増えたという家庭もあり、イベントがよいきっかけとなった。 今回、親は手伝わずに子どもが自分で作ったことにより、自分でやればできる!という自己肯定感を高めることができたと考えた。また、親の分のお弁当も作ったことにより「ありがとう」「おいしいよ」と感謝の言葉も親から聞かれ、子どもが親から与えてもらう存在ではなく、子どもも親へ与える存在になれるのだということが体験できたと思われる。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
18	一般社団法人ミドルマン	長野県安曇野市	セルギー・コルスンスキー閣下	駐日ウクライナ特命全權大使	駐日ウクライナ大使による平和講演会・座談会	令和4年7月16日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使による講演会と座談会を信州大学松本キャンパスで実施した。 講演会ではウクライナの気候や風土に触れながら「ウクライナも日本も四季があり、自然が豊かである」と語った。また、ロシアによる侵攻では独立国家としての文化や国民性が否定されているとし「我々は国家と家族を守るために戦っている」と述べた。 コルスンスキー氏は参加者へのメッセージとして「異なる意見のどちらかを信じるのではなく、自ら歩みだし、確認し、考え判断できる人間になってほしい」と話した。				講演会には80人が参加し、座談会には15人の学生が参加した。 参加者は「ウクライナの現状について当事者から伺える貴重な機会だった。同国の現状について正しく理解し、行動につなげていきたい」と話した。 講演会ならびに座談会ともに大きなトラブルがなく終了し、本事業の目的をおおむね達成することができた。 ロシアによるウクライナ侵攻の早期停戦を願いつつ、実施可能な支援を引き続き模索していく。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
19	一般社団法人宮つ子クラブ	兵庫県西宮市	①菊池 広明 ②一色 篤 ③野村 一優 ④田坂 亜由都	①3×3プロスポーツ選手 ②3×3プロスポーツ選手 ③3×3プロスポーツ指導者 ④3×3プロスポーツ指導者	EPIC3×3 祭り IN兵庫県立尼崎小田高等学校	令和4年7月25日(月)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	プロスポーツ選手、プロスポーツ指導者が小学生に対してバスケットボールの基礎練習(体の使い方、両手でのハンドリング方法、シュートスキル)、1対1のシチュエーションからの状況判断について実技指導を行った。 中学生・高校生に対しては、基礎練習やシュート精度の向上、自分より体が大きい相手に対する体の使い方といった試合に対応できる練習方法、テクニクについて指導した。				夢や希望を持った子供たちが目を輝かせながら熱心に指導に耳を傾けていた。また、トップレベルを身近に感じられた。講演後の3×3のバスケットボールの試合では、教わったシュートスキルや体の使い方を楽しく実践していた。プロと一緒に練習することで、さらに夢や希望が大きくなった生徒もいた。また、チームの仲間や家族、大会関係者に対して思いやりの心をもってプレーすることも教わった。 本団体では今後もバスケットボールの普及、発展活動を行いながら、バスケットボールを通じた教育にも寄与していきたい。	

NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
20	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	川島 範久	建築家／明治大学理工学部建築学科専任講師	岡山市役所があった場所に、人々が集い、一つになれる場所を創る!!!	令和4年10月22日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	川島氏自身の作品やSDGs・環境問題・リサイクルなどの現代社会の問題を「建築をとおしてどう向き合い、どう解決できるか」という川島氏が大学で研究している内容についての講演を受けた。風、温熱、日照といった都市(地球)環境から建築をデザインするアプローチ、働く人へ快適な環境を提供すると同時に建築資材の再利用(アップサイクル)と木や土など自然素材を利用した「ハイクとローテクを融合」した最近の実作「GOOD CYCLE BUILDING 001(浅沼組)」について説明を受けた。また、千葉県で学生と行ったフィールドワークでは現地の土で土壁や版築ブロックを制作し、セルピルビドで建物を作っている話を受けた。				16チームの学生が参加し、自慢の作品についてプレゼンテーション、質疑応答、フリートークを行い、一日かけて審査・好評を実施した。学生の熱意や若さで参加者は皆、良い意味でくたくたになった。 学生たちは第一線で活躍する川島氏や設計クラブのメンバーから様々な意見を聞くことで自身の作品(考え)に対する考察がより濃いものになり、また他校・他チームの作品やプレゼンテーションに触れることでお互いの刺激にもなった。仲間と共同でアイデアをまとめて作品を完成させていく過程で、人々がともに生活する社会について、様々なアプローチで考える力を身に付け、街づくりものづくりに対する関心も高まった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
21	一般社団法人おいしい防災塾	兵庫県神戸市	①諏訪 清二 ②岸本 くるみ ③ひろせ みほ ④鈴木 智弘 ⑤孤鼻 若菜 ⑥中野 元太	①防災教育学会会長 ②特定非営利活動法人CODE 海外災害援助市民センター理事 ③震災絵本作家 ④女川1000年後いのちを守る会 ⑤絵本作家 ⑥京都大学防災研究所巨大災害研究センター助教授	災害体験の語りの重要性～地域の防災・防災教育～	令和4年12月17日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	阪神淡路大震災、東日本大震災、それぞれの災害を体験した方たちが登壇した。体験を絵本にした廣瀬氏、女川で石碑を作ることに尽力した鈴木氏は被災後すぐに中学3年生で活動を起こしたこと、孤鼻氏は震災後転居、その土地で被災体験を語ることができず、社会人となってから活動を起こし絵本や語り部をしている。子供時代に被災したことを語ること活動につながっている、年月が経っても遅くはない。諏訪氏の基調講演では語りの持つ共感性、若い世代が語ることの重要性を述べた。NHKの取材あり。				若い世代が多く参加し、オンラインでは参加者の9割が大学生だった。現地も高校生から社会人まで参加した。大人が被災して大人が活動を起こしているのではなく、子供時代に被災し、言葉でうまく話ができなくても自分にできることで災害を伝えていく大切さを感じてもらった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
22	あきたESDネットワーク	秋田県秋田市	①金澤 伸浩 ②菅原 香織	①秋田県立大学准教授 ②秋田公立美術大学准教授	鳥海山麓「環境教育指導者養成講座」「Project WET」	令和4年9月10日(土) 令和4年10月16日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	アメリカ発の環境教育プログラム【Project WET】認定講師(ファシリテーター2名)によるエデュケーター(一般指導員)を育成する事業である。3年ほど開催していなかったため要望があった。9月10日はアクティブラーニング手法を取り入れた環境教育手法「まずはやってみよう!」からDCAPの手順を学んだ。定番を中心に親子向け体験をし、次回活用できるもの、日本や秋田の状況に合わせた進め方や資料の提供があった。10月16日は準備段階から子どもたち寄ってきて興味を示した。指導実践は、ファシリテーター以外は初めての経験。優しく丁寧に子どもたちに寄り添っている姿が印象的だった。高学年の子供たちで、保護者は見ることが少なくなっている子供たちの動きを観察していた。				コロナや社会状況で、講習会参加者が集まらずに苦労した。少数精鋭が集まった。アクティブラーニング・インプット・アウトプット・実践には回数をこなすことが必要と理解できた。講師は初認講師を育てながら学生に指導した。グラフィックレコーディングにより学んだことを記録したことにより、一目で確認できた。(新しい試みが成功)指導実践の学生からは、自分が教える側に回り、子供たちと話をし、緊張した。良い経験となった。自然観察指導員や高齢者が様子を見て、道具や手法に興味関心を引き付けることができた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
23	特定非営利活動法人なないわ文化芸術芸術推進協議会	大阪府大阪市	①小谷 利明 ②飯富 雅介 ③原 大 ④山中 雅志 ⑤坂上 弘子	①八尾市立歴史民俗資料館館長 ②能楽師高安流ワキ方 ③能楽師高安流ワキ方 ④能楽師高安流シテ方 ⑤八尾・高安地域歴史研究家	能楽と八尾の関わりを探る講座～八尾の地名伝説から地域にゆかりの能作品を創造する～	令和5年1月15日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	八尾の地名の由来の一つとされる「八尾の鶯」伝説と謡曲「八尾」についての基調講演のあと、その文化的素材を基に地域ゆかりの作品として新たに創作する「当地発祥の高安流能楽師による創作作品「八尾」」のについてパネルディスカッションを行った。				当講座で紹介の創作作品「八尾」の舞台となるのは八尾市八尾本地区であるが、この場所は国指定史跡弓削寺跡横にあり、歴史ファンにもなじみが深い。「八尾の地名伝説から地域にゆかりの能作品を創造する」という切り口から地域の文化財を活かした地域づくりの取組について興味を持ってもらうことができた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
24	高安ルーツの能実行委員会	大阪府八尾市	①西野 春雄 ②朝原 広基 ③山中 雅志 ④福田 祐美子	①法政大学名誉教授 ②能楽研究科 ③能楽師観世流シテ方 ④八尾市立しおんじやま古墳学習館学芸員	八尾高安地域ゆかりの幻の能「綱」を探る講座	令和5年2月11日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	基調講演 令和に蘇る幻の能「綱」研究公演で見えてきたこと 講師 西野春雄氏 法政大学名誉教授、能「綱」作者 地域ゆかりの能作品として復元創作を進める能「綱」について、能の復元創作第一人者の西野春雄氏から2021年、2022年に開催した研究公演を踏まえて内容検討する基調講演を行った。 パネルディスカッション 能「綱」の制作効果及び話題性 作・監修者の西野氏に加え、地域伝承及び鬼の研究者福田祐美子氏、地域と能楽のかかわりを研究する朝原広基氏、出演者で能の演出を担当する観世流能楽師山中雅志氏により、パネルディスカッションを行った。				近年ブームとなっている「鬼」を主人公にした能作品を創作することにより、これまで能に触れたことのない年齢層にもアピールする話題性を創出することができ、能の愛好者のみでなく観光目的及び歴史の興味による新たな観客・協賛者を呼び込む地域づくりの戦略として認識してもらうことができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	特定非営利活動法人うい むい未来の里CSO	青森県青森市	伊藤 香織	東京理科大学教授	都市再生理論「シビックプライド」を啓発する講演会事業	令和4年11月8日(火)
	事業内容				事業成果	
	青森大学地域貢献演習受講生と講師伊藤香織教授との交流講座 ・なぜシビックプライドに注目(研究)したのか？シビックプライドを知ったきっかけは・青森は人口減少や高齢化など様々な問題があるが、シビックプライドを市民に意識させることで、何がどう変わるのか・シビックプライドを啓発するために、我々学生の世代ができること、やるべきことは何か・伊藤さんが関わり、シビックプライドで地域づくりをしている日本の地域の実情と成果を教えてくださいといった質問に答えた。 一般向けのフォーラム 講師伊藤香織教授は2008年に発刊した編著「シビックプライド～都市のコミュニケーションをデザインする」のシビックプライドの先進国の取り組みを紹介し、シビックプライドとは何かを解説した。 青森からの提案 青森商工会議所副会頭の西秀記が青森におけるシビックプライドの実態と取り組み事業を簡潔に提言した。 パネルディスカッション 伊藤香織教授と西秀記と青森におけるシビックプライドの醸成について語り合った。				フォーラム参加者より 基調講演を理解できた・・・70% 提言について共感できた・・・75% パネルディスカッションについて議論を深められた・・・50% シビックプライドを理解できた・・・90% シビックプライドを実践したいと思う・・・65% のアンケート結果を得た。 青森におけるシビックプライド醸成の可能性を訴求できたフォーラムとなった。参加者の多くは、このフォーラムの継続について賛同した。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	大崎自然界部	宮城県大崎市	①松橋 玲二 ②高橋 のぞみ	①NPO法人田んぼ代表 ②NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ	昆虫大好き！企画 アカトンボ見つけ隊 オニコウベに集合	令和4年8月10日(水)・11日(木)
	事業内容				事業成果	
	アカトンボ調査イベントの開催により多くの人が大崎耕土の自然環境や生物の多様性を知り、生物の育つ環境に興味関心を持ち、環境保全の重要性を学んだ。 トンボの生態や農業の影響、雌雄の判別方法等を学んだ。				トンボに初めて触れた子供も多く、トンボの形や羽の動き、呼吸の仕方、複眼等を興味深く観察することができた。 雌雄の判別等を行うことができ調査票を作成することができた。 トンボの種類を判別することができ、多様な生物が大崎に生存しており、大崎耕土の自然豊かな環境を理解してもらうことができた。 今回の企画には親子での参加が多かったため、親子で環境保全の重要性について考え、学んでもらうことができた。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	まちづくりアカデミー+α	岩手県奥州市	大槻 拓美	株式会社プロジェクトデザイン SDGs de 地方創生カードゲーム 公認ファシリテーター	SDGs de 地方創生カードゲーム体験会	令和4年9月23日(金)
	事業内容				事業成果	
	SDGsの経緯、世界人口の増加を背景にした地球の限界、17のゴールと169のターゲットの解説。 設定の目的、SDGsイシューマップによる17のゴールの関連性に関する解説。 SDGs de 地方創生カードゲームを用いた架空の都市「奥州市」の12年後を想定し、持続可能なまちづくり・地域づくりについて12のチーム分けによるワークショップ(対話・発表・まとめ)のファシリテート。 地方創生に関する解説、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要、国連版SDGsと総合計画におけるSDGsの位置付け、奥州市版SDGsによるSDGsイシューマップの解説、地方創生との関係性の解説。				参加受講者は計30名。市民、県議員、市議会議員、主催団体のメンバー、高校生、中学生、市職員と他分野から参加を得た。 SDGsの認知をさらに高める解説を踏まえてワークショップ形式により、カードゲームの手法により架空の都市の12年後を想定した持続可能なまちづくりのために、事業者、一般市民、行政など多様な立場による対話・連携の重要性を認識する機会となった。 今般の受講により、SDGsの本質として、ゴールの連鎖性、17のゴールは単独にあるのではなく、全部を同時に達成する重要性、理想の姿を描き、そこから「どうすればできるか」を考える「バックキャスト」の考え方であることをする機会となった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
28	特定非営利活動法人夢空間松代のまちと心を育てる会	長野県長野市	平山 優	山梨県立中央高等学校 教諭	真田信之入部400年記念事業実行委員会関連事業 真田信之入部400年記念特別講演会「真田信之と松代」	令和4年9月10日(土)
	事業内容				事業成果	
	真田信之松代入部400年記念事業として特別講演会を開催。大河ドラマ「真田丸」時代考証担当者の平山優氏を迎え、「真田信之と松代」と題して講演していただいた。 松代藩初代藩主として礎を築いた真田信之公の波乱と苦悩の生涯を語っていただいた。				参加者250人と実行委員15人、ボランティア22人(うち中学生7人) 講師の平山氏は2年ほど前から真田宝物館に残っている大量の古い文献から真田信之に関する調査を行っている。今回は発表されていない文献で松代入部前の信之の動きや入部してからの動きなど多岐にわたって話していただいた。 参加者は関心をもって聞き入り、有意義な時間を過ごすことができた。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	特定非営利活動法人わおん	長野県塩尻市	畠中 洋行	プロセスデザイナー	こどものチカラを信じたまちづくりの成果とこれから	令和4年10月1日(土)
	事業内容				事業成果	
	高知県で行われている子どもを主体とした2つの事業について講演。 ①「とさつ子タウン」 子どもが職業体験等を行いながら模擬の町を作る取組。今までできなかった農業体験も実施。 ②「こうちこどもフランド」 1事業20万円を上限として、子どもの活動への助成を実施。助成事業の審査にも子どもが関わる。				市内外から子どもの活動に関心がある様々な立場の人が集まり、情報共有できた。 目標を明確化して具体的な計画づくりを進めていく共通認識を持つことができ、今回参加した人とも連携を取り、広範囲で子どもたちが主体となれるまちづくりを進めていくきっかけとなった。	

NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
30	NPO法人棚田LOVER'S	兵庫県神崎郡市川町	①山田 俊行 ②山下 正雄	①トヨタ白川郷自然学校学校長 ②(有)南ぬ風代表 地域づくりイベント	棚田で自然体験を実践を通じて学ぶ地域づくり研修会	令和4年8月27日(土)・28日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	トヨタ白川郷自然学校長の山田俊行氏は、トヨタ白川郷自然学校のキャンプの例から自然体験の実践について講演された。リスク管理や役割分担を的確にし、スケジュールも計算して参加者の満足度をあげるためのアドバイス、事前準備の大切さについても講演された。有限会社南ぬ風代表の山下正雄氏は、伝統文化やその継続の秘訣を話された。また、ストーリー性を持たせながら活動していくことの大切さをアドバイス頂いた。				スケジュールも計算してどのようにすれば参加者満足度が上がるかイメージすることで、今後の事業に活かしてリピーターを獲得することにつながった。また、自然体験の取組で事前準備をしっかり行うことの重要性を学べた。伝統文化については、自然体験の重要性を実践を通じて伝えていくため、ストーリー性を意識して事業を行うことが学べた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
31	一般社団法人スキルチャレンジ	北海道釧路市	鈴木 翔也	アイスホッケー指導者	マルチススポーツ体験講習会	令和4年11月19日(土)・20日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	二日間にわたり、子どもから大人まで約100名の選手及び指導者に対してアイスホッケーの実技・ノウハウ等を指導された。また、釧路地域がゆかに環境に恵まれているかを強調されるとともに、アイスホッケーを通じて地域活性化へ繋げるためには、アイスホッケー環境整備、競技人口拡大、業界活性化が重要なことについて講義された。				世界トッププレイヤーから直接指導いただき、釧路地域の子供たちにとって素晴らしい体験となった。受講した指導者にとっては釧路地域ならではの選手の指導方法や育成計画を学ぶ機会となった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
32	くまの木里山応援団	栃木県矢板市	①谷本 丈夫 ②柴野 達彦	①宇都宮大学名誉教授 ②宇都宮大学大学院	イヌブナ自然林ガイド人養成検討会	令和4年11月23日(水)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	くまの木里山応援団は、高原山麓において魅力的な「安らぎの里」を作り、団員の自己実現の場として活用することを目的に活動している。国の天然記念物である「イヌブナ自然林」について理解を広げるため、イヌブナ自然林ガイド人養成検討会を開催した。検討会では、森林の生理生態、歴史の概説、森林観察の際の歴史把握の重要性、他地域との連携の必要性について説明があった。				類似した数種類の樹木が並んでいるところで植生についてわかりやすく概説いただいた。また、散策路の工夫の必要性や森林のとりまく歴史を把握する必要があることを学べた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
33	膳所学区自主防災会	滋賀県大津市	①高砂 晴美 ②室崎 益輝 ③石本 幸良	①災害救護専門ボランティア ②神戸大学名誉教授 ③まちづくりプランナー	「顔の見える安心感のあるまち 膳所」を目指して	令和4年10月1日(土) 令和4年11月6日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	第1回講座の高砂氏の講演では、阪神淡路大震災以降の大地震及び風水害現場の救援活動が紹介された。石本氏からは膳所学区、自主防災会活動の実態報告をもとに、自治体単位での自主防災活動の必要性が提案された。第2回講座の室崎先生の講演では「滅災は巨大な自然に小さな人間が立ち向かうこと」をテーマに、住民レベルでの具体的な取組が説明された。				膳所学区での住民を対象とした防災講座開催は初めての取組で、日常的な防災への関心が高まったとの声が多く聞かれた。「顔の見える安心感のあるまち膳所」を目指して自治会レベルで防災活動を行っている取組の発展に貢献する講座であり、防災への意識向上に大きな成果が得られた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
34	(特非)いちかわライフネットワーククラブ	千葉県市川市	①小林 正樹 ②山崎 泰介 ③松井 聡 ④木村 則彦 ⑤山崎 裕史 ⑥横川 貞夫 ⑦追江 純	①首都圏防災士連絡会本部長 ②市川市社会福祉協議会事務局次長 ③市川市立塩浜学園校長 ④技術士(建設部門)都市及び地方計画 ⑤一級建築士 ⑥市川市妙典三丁目自治会前会長 ⑦ヒビノ株式会社音響技術制作テクニカルマネジメント	いちかわTMO特別講座「TMOシンポジウム」～地域防災から考える、レジリエントな社会の実現～	令和4年11月19日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	レジリエントな社会の実現について、社会福祉協議会、防災士、市川市消防局、塩浜学園校長、技術士、TMO講座修了生のそれぞれの立場から地域防災について実践的な説明を行った。その後、一般参加者を交えて「常災一如」「フェーズフリー」をキーワードに議論した。				行政支援には限度があり、共助や自分が災害時にできる専門分野を意識すること、モチベーションに頼らず日々の小さな習慣を大切にすることが議論された。議論されたことを今後のTMO講座等を通じて広めていく。今回の事業は地域防災の取組として注目され、メディア取材も受けた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	長野市大岡地区住民自治協議会	長野県長野市	小口 良平	自転車冒険家/サイクルアドバイザー	自転車で地域をもっとおもしろく	令和4年10月17日(月)・18日(火)
	事業内容			事業成果		
	自転車による地域づくりは様々な可能性があり、観光資源が乏しい地域であっても自転車を使いながら地域にあるものを新たな観光資源として活用することについて講義された。また、eバイクなどの新しい自転車の普及により、地域ネットワークの拡大、地域社会の再編集にもつながる可能性があり、住民意識や環境負荷の改善につながっていくこと、自転車の生涯スポーツとしての有用性についても講義された。			今回の参加者を中心に自転車活用推進のための協議会設立の機運が高まった。この協議会が母体となり、自転車活用の動きを先導していくこと、講師である小口氏も協議会設立のアドバイザーとして支えてくれることとなり、具体的な進展が見込まれる。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	特定非営利活動法人なんぶねっと	青森県三戸郡南部町	①古賀 桃子 ②根市 大樹 ③町田 直子 ④鳴海 孝彦	①ふくおかNPOセンター代表理事 ②合同会社南部どき代表 ③株式会社ACプロモート代表取締役 ④八戸学院大学短期大学部准教授	あおもり地域づくりスタートアップミーティング	令和4年11月19日(土)
	事業内容			事業成果		
	ふくおかNPOセンター代表理事の古賀桃子氏のコーディネートにより、スタートアップミーティングを行った。事例発表では、合同会社南部どき代表の根市氏による、農業から6次産業化、子どもたちの教育や食育につなげる取組の説明、町田直子氏からは八戸市の港町の特性を活かした観光事業展開等の先駆的な事例紹介があった。その後、八戸学院大学准教授の鳴海氏を加え、「協働」や「持続可能な地域づくり」をテーマにディスカッションした。			関係者を含めて30名が参加し、研修会での学びとともに参加者のネットワーク形成につながった。会場参加とオンラインのハイブリッド式で開催することによりコロナ対策につながるとともに、後日視聴を希望する方にもYouTubeで視聴してもらい、その時限りで終わらない取組となった。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	特定非営利活動法人山の遊び舎はらべこ	長野県伊那市	①宅明 健太 ②幕内 那菜	①学校法人茂来学園大日向小学校教頭 ②大日向小学校在校生保護者／はらべこOG	第15回子育てを考える集い	令和4年10月22日(土)
	事業内容			事業成果		
	「かかわり」をテーマに、大日向小学校教頭の宅明健太氏による講演を実施した。また、はらべこ園長及びはらべこ卒園児の幕内氏を加えた3名での討論会をオンラインで配信した。講演では、「文脈の中で学ぶ」ことを中心に、子供たちの学びへの関わり方、学びを中心とした個々の関わり合いの中で獲得してゆく「役わり」の重要性について話された。討論会では、関わり合いで生まれる3つのところ「私と、あなたと、その2つの間にある社会性」の動きの話を中心に、ぶつかりかかわりあう経験を積むことの大切さについて討論が展開された。			幼児期、幼少期の関わり合いぶつかり合いの経験がこころを育てるためにいかに重要な学び機会を提示できた。オンライン開催も実施したことにより、遠方の参加者とも広い地域や様々な立場からの意見交換が行えた。この会に参加した方にとって、日々の子育てや保育への振り返り、これからの関わり合いについて更に深く考えるきっかけとなることを期待している。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	特定非営利活動法人街・建築・文化再生集団	群馬県前橋市	①藤川 昌樹 ②梅津 章子 ③森井 康裕 ④五十嵐 恭彦 ⑤塚原 秀之 ⑥野口 純一 ⑦吾妻 周一 ⑧横内 基 ⑨河東 義之	①筑波大学社会工芸学教授 ②文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門主任文化財調査官 ③国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐 ④鶴岡市企画部政策企画課政策企画専門員 ⑤長野市教育委員会事務局文化財課主査 ⑥結城市商工会議所中小企業相談所所長 ⑦ディスカバーまかべ会長 ⑧国土館大学理工学部理工学科建築学系准教授 ⑨小山工業高等専門学校名誉教授	特定非営利活動法人 街・建築・文化再生集団 2022年度研究集会 結城紬が築いた歴史的風致を継承するために＜伝建制度、歴まち法を活かした地域づくりを考える＞	令和4年10月29日(土)・30日(日)
	事業内容			事業成果		
	29日は参加者40名が見学会を行った。講師や観光ガイドの方から結城の街並み、歴史的建造物を活かしたまちづくりについてアドバイスを受けた。 30日はフォーラムを開催し、地域活性化推進をテーマにご教示をいただいた。各地の事例報告や基調講演をもとに、結城の伝建制度、歴まち法を活かした地域づくりについて議論も行った。			結城市に対する伝建制度及び歴まち法の適用と歴史的風致維持向上計画策定に向けて、具体的に一歩踏み出すことを目的としていた。 多くの市民の参加を得て、講演とアドバイスから結城市の歴史的風致、軸遺産の文化財を地域づくりの核として活かす市民と行政が一体となった新たな手立てが具体的な形で見えてきた。 結城市副市長からは、歴まち法適用に向けて一歩踏み出す決意をいただいた。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	Happy Mamaプロジェクト	福岡県大牟田市	①佐藤 有里子 ②中村 路子 ③樋口 由恵	①一般社団法人umau代表 ②一般社団法人umau副代表 ③一般社団法人umauコミュニ ティマネージャー	育て合う学び合う支え合う～相互扶助事業～	令和4年10月22日(土)
	事業内容				事業成果	
	相互扶助・講演会を実施した。 一般社団法人umau様より「貧困は経済的なものだけでなく、愛情や時間など根っこにある貧困を自覚し、満たしていくことが大切であること」「子育てや暮らしをシェアしてみんな家族になり、みんなで助け合っていくことが重要であること」について講演をいただいた。 講演後はワークショップや各グループでディスカッションを行った。 自分だったら何ができるかを考え、自分ごとと落とし込むことで、主催者、参加者、講師が一体となることができた。				21名の参加者の中には、市議会議員2名、行政5名、社会福祉協議会1名が参加し、親子の拠点の必要性を感じてもらうことができた。 今後、より一層行政側とうまく連携していくきっかけづくりにもなった。 参加者アンケートでは「大牟田のために何かやりたい」という意見が多く、満足度の高い講演会になった。自分事として考えるきっかけづくりにもなった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	特定非営利活動法人室蘭NPO支援センター	北海道室蘭市	①宮本 奏 ②津田 光子	①NPOファシリテーションきたのわ代表 ②NPOファシリテーションきたのわメンバー	楽しくマジメにまちの未来を語り合うために ～実りある会議をつくるファシリテーション入門講座	令和4年11月20日(日)
	事業内容				事業成果	
	ファシリテーションの考え方や必要性の説明、会話と対話、会議の違いの解説と実践指導を行った。 対話を聞き、観察する「ストーリートリオ」や役割を決めて模擬会議を行った。 議論の4つの段階「共有・発散・収束・決定」を踏まえ、時間配分や問いの内容、記録のルールなどを決める「作戦会議」を行い、実践に役立つ模擬会議を行いながら、短い時間での一定の合意が得られた。				参加者は、市民活動団体、学生、市民、行政職員、市議会議員などまちの課題を議論する方たちが集まった。 「心理的安全性」を確保したり、対話・議論の基礎について学ぶことができた。また、課題共有の大切さや意見の発散や混沌を恐れないことなど、議論を深め、納得のいく決定を得るための流れを理解することができた。 ファシリテーションマインドを広めまちづくりに活かしていくための活動を広げていく礎をつくることができた。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	NPO法人せんなんまちづくりねっと	大阪府泉南市	①山口 幸男 ②橋本 慶子 ③南浦 敬司 ④森広 浩允 ⑤高谷 周司	①NPO法人日本郷土かるた協会理事長 ②堺かるたの会会長 ③社団法人くまりにぎわい観光協会 ④せんなんかるた普及実行委員会委員長 ⑤TS企画代表	郷土かるたシンポジウム	令和4年10月30日(日)
	事業内容				事業成果	
	基調講演は山口幸男講師による「郷土かるたの価値と発展への道」のテーマで講演をいただいた。これからの発展は競技会の継続開催が重要で運営組織が必要である。 パネルディスカッションは橋本氏、南浦氏、森広氏の3名から発表していただいた。				郷土かるたを活用した新たな取組の方向が創出できた。 一つ目に、泉州地区でのかるた競技大会の開催に向け、市町村単位での競技会の実施。郷土かるたの競技性を明確にした大会運営組織づくりと関連団体への働きかけを行う。 二つ目に、近隣市町村と連携して、郷土かるたの活用を土台に地域文化の交流を図る契機となった。市内の他地区の良さを知ってもらうためのツールとして郷土かるた活用を図るきっかけとなった。 三つ目に、かるたの語調を、産業や文化の紹介の手段としての活用するヒントを得た。 アンケート結果より、基調講演の中で、郷土かるたを競技として活用することが地域活性化につながる有効手段の一つとして理解できた。 他地区の郷土かるたの制作の背景を知ることができ、普及活動のヒントになった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	一般社団法人青森県レクリエーション協会	青森県青森市	佐藤 喜也	福島県レクリエーション協会常務理事兼事務局長	令和4年度青森県レクリエーション協会フォローアップ研修会	令和4年11月6日(日)
	事業内容				事業成果	
	「フォローアップ研修」では、レクリエーション指導者として身に着けるべき3つのポイントを学んだ。 一つ目に、歌・踊り・ゲームから学ぶ自己効力感についてである。成功体験の積み重ねと、自分ができるという意識のあり方が重要である。 二つ目に、できた！を支えるCSSプロセスの活用方法を身に着けること。参加者の様子や反応を取り上げ、タイミングよくほめどころをつくること。 三つ目に、参加者が心地良く受け入れてくれる表現方法を身に着けること。 「講師トレーニング」では、講師に必要な「実践力・講師力・講師育成力」を高めるための心の在り方について講義をしていただいた。その後、実践を交えて心の元気づくりを支援する知識と技術を高めるため、実践を交えての講義を行った。				佐藤講師の持ち前の歌唱力に引き込まれながらの実践指導により声の出し方や顔の表情など表現の仕方について学ぶことができた。 レクリエーション支援を展開できる実践力こそ数多くの現場での実践経験が一番の力になることの教示に、場数を増やすことで全員が納得した。 各場面に合わせた進め方のコツを指導いただいたことにより、心の元気づくりを支援する指導者のスキルアップにつながったことが大きな成果であった。	

NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
43	公益社団法人長野県建築士会佐久支部	長野県佐久市	竹内 昌義	東北芸術工科大学教授	ゼロカーボン社会の建築のあり方～皆でつくる未来の社会	令和5年2月3日(金)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	ゼロカーボン社会をつくるため、行政、建築士、ユーザーのそれぞれの立場でどのように行えば実現できるか講演本題に入る前に、先生の意向で参加者同士話合った。 国内外の取組事例や二酸化炭素排出に関する具体的な数値を参考にしながら、住み良い社会をどう築いていくべきなのか考えながら講義いただいた。				はじめに「ゼロカーボン社会とは何か」をそれぞれが考えたことにより、先生の講義がより身近に感じた。住み良い社会のために自分たちがするべきことを各自の立場で感ることができた。 二酸化炭素の排出量実質ゼロに向けて、未来の子どもたちが安心して生活できる社会の実現のため、参加者一人一人が行うべきことは何か考え知ることができた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
44	三世代生涯学習 くしろベルバンド	北海道釧路市	杉木 峯夫	東京芸術大学名誉教授	三世代生涯学習バンドの実践演奏実技指導公開講座	令和4年10月29日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	地域のトランペット愛好家のレベル向上のため、より美しい音楽表現を実現するための専門的なテクニック指導を展開した。 実践的な発表現場におけるポイントを各講師が実践を交えて指導し大きな反響を得た。				講師の豊かな経験と専門知識が、幅広い年齢層の受講生にとって、有意義で即効性のあるものとなった。 講習会は和やかで明るい雰囲気の中で進行され、聴講者は音楽への興味が増している様子が伺えた。普段容易に受けることのできない一流講師の豊富な経験と厳しいプロ芸術家の実体験が地域音楽活動の意欲向上に大きく影響を与え、今後の活動の後押しとなる講座であった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
46	社会福祉法人芳香会	茨城県古河市	大村 美保	筑波大学人間系障害科学域 助教	高齢知的障害者の現状と支援のあり方を学ぶ	令和4年11月19日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	今回の障害者福祉セミナーでは、筑波大学人間系障害科学域の大村美保助教授を講師に迎え「知的障害者の高齢化～親なき後を見据えて、今からできる備え～」をテーマに講演をいただいた。 大村先生が強調していたのは「ライフストーリーワーク」であった。本人の代わりに説明し、あるいは本人の説明を補足してくれた家族も、本人が高齢期になる頃には、支え手として充分に役割を果たせていない可能性があるため、写真やビデオ動画、日記帳など生活・人生を記録するものを積み上げていくことが重要であることを学んだ。				オンライン研修であったため、さまざまな媒体を活用し、主に障害者支援の実践者に向けて開催告知を行った結果、茨城県内から71名の参加があった。 大村先生は講演の中で、今からできる備えとして「健康管理、環境整備、長い期間を見据えたケアマネジメント、ライフストーリーワーク」を挙げていた。 事例紹介を交えての講演であったため、具体的に参加者にも理解しやすかった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
47	EcoFutureCenter@Karuizawa	長野県北佐久郡 軽井沢町	①青木 裕子 ②松島 邦 ③高谷 秀司 ④ムンロ王子 ⑤飯田 和子	①軽井沢朗読館館長 ②朗読家 ③ギタリスト／琴奏者 ④ハイブリッド・パフォーマー ⑤料理研究者	公開研修会／軽井沢で日本語を味わう&防災食を味わう	令和4年11月6日(日)・7日(月)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	第一部は「日本語を味わう」をテーマに行った。主催者の佐藤建吉氏が趣旨と背景について解説した。 続いて、青木裕子氏が茨木のり子氏の詩を記念朗読した。 次に、松島邦氏が茨木のり子氏を誦う。 最後にムンロ王子がトーク、朗読、シャンソンで茨木のり子氏の作品を演出した。 第二部は「防災食を味わう」をテーマについて、茨木のり子氏の献立帖からのレシピについて解説した。 その後、調理、試食、意見交換会を行った。				文芸と観光の軽井沢に、茨城のり子氏と防災食を広めて、持続可能な軽井沢と日本を広めるための活動であった。軽井沢FMではスタジオに主催者と講師が同い、予告放送し、町民等に周知できた。また、東京からの講師の方々にも、今回の行事を発信していただいた。地元だけではなく成果の得られた事業であった。 第一部は「日本語を味わう」をテーマに行ったものでは、東京の日比谷図書館文化館での講演に活かされた。 第二部の「防災食を味わう」をテーマに行ったものでは、今後も継続して地元で定着を図る取組の端緒となった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
48	特定非営利活動法人こどもステーション山口	山口県山口市	杉 幸司朗	田楽座座員	お祭りを学び、めざせ！おまつりマスター！ ー子どもと大人が太鼓でつながる地域づくりー	令和4年11月23日(水)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
	獅子舞・和太鼓について講演があった。 一人で舞う獅子舞、二人で舞う獅子舞、ビニールハウスほどの大きさがある獅子舞の写真を見せて貰えた。 太鼓については、種類や素材、祭りでたたかれるリズムのことなどの話があった。 講演の後は、実際に獅子舞をかぶって、舞い方を教えてもらい、バチをもって、実際に太鼓を各々がたたいた。				日本のお祭り「獅子舞」について深く知ることができた。獅子舞はテレビや本で見たことはあるが、実際に本物をまじかで見たことがある人は少なかった。伝統芸能と呼ばれる日本全国に伝わるお祭りの数々の一端に触れることができた。 実際に獅子舞をかぶって、舞い方を教えてもらうことで、より獅子舞に興味をもつことができた。 太鼓をたたいた経験からは、太鼓の振動を体全身で感じるができ、皆でたたくことの一体感も感じる事ができた。 男性の参加も多く、子どもから大人が一緒になって太鼓をたたき、獅子舞いの踊りを通して、感情を解放することができ、心身ともにリラックスすることができた。地域の祭りに目を向けるきっかけにもなった。	

NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	特定非営利活動法人 Mama's Cafe	岐阜県多治見市	胡内 敦司	元千葉県松戸市子ども部審議 監	地域みんなで子ども・子育て支援を考える勉強会	令和4年11月22日(火)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
49	【基本的社会背景】 虐待の増加、そのほとんどが0歳である。被害児のショートステイ利用は0件。国は新たな改正児童福祉法で地方自治体に予算と権限をつけている。中でも、地域にショートステイを増やすことを念頭においている。重篤な状況になる前に、虐待予防にショートステイを使って欲しいと考えている。 【改正児童福祉法のポイント】 ショートステイ事業は施設がなくてもでき、保育士、里親が自宅でもできるように改正。予算に年間の人件費650万円、施設整備費、送迎費の追加等である。				現場が抱える問題や思いを熟知された講師の講演はとても分かりやすい説明で、参加者は素直にインプットすることができた。 グループワークでは、岐阜県内の子育て支援団体で話し合いと交流を行い、それぞれの持ち場で真剣に頑張っている支援者のモチベーション向上、新設制度に希望を感じ、ショートステイ立ち上げファーストステップとなった。団体双方に良い刺激を受け合い、良い勉強会となった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	特定非営利活動法人みらいの学校	秋田県雄勝郡羽後町	亀岡 勇人	株式会社マッシュアップ代表取締役	地域の稼ぐ力向上のためのセミナー開催およびアドバイス享受	令和4年11月16日(水)・17日(木)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
50	「地域の稼ぐ力」向上を目的に都内で大手企業のプロモーションで実績のある(株)マッシュアップ代表の亀岡氏を招聘し、地域事業者を対象としたセミナー及び企業訪問を行った。 企業訪問に関しては、企業理念やビジョンから商品のストーリー性を重視したアイデアに関してのアドバイスがあった。 講演においては、アイデア発想法をメインに講師の実績事例の説明、地域資源の組み合わせによる商品アイデアの創出について参加者とのコミュニケーションを取りながら実施した。				企業訪問に関して、3社5名とミーティングを実施した。企業との協働の取り付けに関しては、明通チーズ工房1社がチーズステーキに関しての商品開発をすることで同意した。2023年度中の実販を見込む。 セミナーには6名が参加し、ワークショップを実施した。和菓子の事業者が多いことに着目した、おかずになるまんじゅうのアイデアや地域一丸となった観光ツアーの開発などのアイデアが創出され、開発後に個別にヒアリングを行ったところ、参加者の83%が商品開発のモチベーションが上がり、実際に事業者への提案を行いたいという意向が確認された。	
NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	NPO法人元氣お届け隊	長野県千曲市	①北村 智 ②河合 武俊	①吉本興業所属長野県住みま す芸人こてつ ②吉本興業所属長野県住みま す芸人こてつ	NAGANOの食を楽しもう	令和4年11月13日(日)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
51	【BOMBERおにぎり体験会】 参加者の方には田舎の巨大おにぎりづくりに参加していただいた。こてつの二人の講演を聞きながら、大岡の農業を使用せずに育てた棚田の新米おにぎりを楽しんでいた。 【NAGANOの食を楽しもう交流会】 棚田の酒米を使用して作られた日本酒とこてつ北村のスペシャルメニュー、田舎料理を堪能いただいた。 こてつの二人が講演で美味しいう新米と地酒を紹介しながら大岡の魅力を伝えるとともに、農家体験や観光交流のPRを行った。				長野県内のテレビやラジオ番組で活躍し、長野県から信州観光宣伝大使に任命されている「こてつ」の巧みな技術でお客様の笑いを誘い、大岡地区のPRが存分にできた。交流会で出した新米、地酒、郷土料理にも高い評価をいただいた。過去数回同様のイベントを行ってきたが、リピーターのお客様も多く、着実に周知や魅力アップにつながった。	
NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	いよ本プロジェクト運営委員会	愛媛県伊予市	太田 剛	「図書館と地域をむすぶ協議会」チーフディレクター	本と人をつなぐ人材育成事業	令和4年11月3日(木)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
52	「図書館で地域が変わる 未来を展く 本のまち伊予市を目指して」と題した講演内容は以下の通り。 宮崎県椎葉村「ぶん文BUN」、高知県梹原町「雲の上の図書館」を中心に講師が関わっている図書館づくりの事例紹介。 図書館は多様な主体と連携してソーシャルイノベーションを起こす力があり、多層的に関わることで、持続可能な社会づくりの中心施設として、地域のレジリエンスを発揮することができる。 「全国各地の『子ども読書活動推進計画』などにみられる読書は目的化されているのでは?」という疑問から「方法としての読書」という本来の意味を考え、「利他」の考え方と教養の関係を学んだ。				社会全体での図書館の存在価値が分かった。図書館と社会のつながりについて考えさせられ、地域社会における図書館への興味関心が深まった。 これからの持続可能な社会に向けて重要とされるレジリエンスには、多様な市民の参加が必要となるが、その主体は図書館ではなく、地域であり、参加者一人一人が図書館に関わるという意識の浸透が必要である。 また、市民の図書館との関わりだけでなく、読書本来の意味を知ること、伊予市の読書文化を根本から考えるヒントが得られた。 今後は、伊予市ならではの地域住民の図書館との関わり、さらに読書文化の構築を進めていきたい。	
NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	六日町合同会社	宮城県栗原市	①稲葉 雅子 ②蘇武 和祥	①湘ゆいネット代表取締役社長 ②Ourthing店主	商店街活性化にむけた研修会	令和4年4月13日(水)・20日(水) 令和4年6月4日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
53	第一回「先輩事業者から店舗運営の工夫を聞きヒントを得る」参加者各店舗の課題を考える。目標をつくる。 第二回「各店舗が自店の課題、目標を発表」講師より課題解決のポイントを講義を受ける。 第三回「勉強会で考えた課題、解決策を各自が発表」講師より助言を受ける。				同業者同士が悩みや課題を共有することで、店主の不安感が軽減された。講師、参加者の意見交換を行い、各店舗の課題への具体的な解決策が見いだせた。 個店の施策だけでなく連携して、共通のプロモーションをやっていくという積極的な計画ができた。	
NO	団 体 名	所 在 地	講 師 氏 名	講 師 職 名 等	テ ー マ	実 施 日
	安土学区まちづくり協議会	滋賀県近江八幡市	①岩田 静治 ②岩田 順子	①株式会社行動科学研究所所 長 ②株式会社行動科学研究所所 員	地域づくり講演会「100年時代の行動戦略」	令和4年9月17日(土)
	事 業 内 容				事 業 成 果	
54	「100年時代の行動戦略」のテーマのもと2人の講師による講演が行われた。岩田静治氏の長年の研究成果によれば、かつて地域や勤務先などの人間関係のしがらみを脱した個人は、今日新たに人間関係を築く必要がある。つまり、個人の社会的な成功といえど、実際にはさまざまな偶然性に左右されるため、他社による支援が不可欠なのだ。 このことの証左として、過日死去した稲盛和夫氏の「帆を掲げて他力の風を受ける」が引用された。 岩田順子氏の講演では、「呼吸法」の実技指導が行われた。呼吸の善し悪しは個人の日々の活動に影響し、稲盛和夫氏のような成功者は呼吸が深かったという事実も紹介された。				84歳、82歳の講師がはつらつと講演をする姿は、刺激的であった。 また、今回の講演会では、事前に主催者側と講師で何度も打ち合わせを行った。これまでの講演会では内容や方法を講師に一任していたが、今回は講師と主催者側で一つの講演会をつくり上げていく有意義な経験ができた。	

NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
55	特定非営利活動法人みんなの集落研究所	岡山県岡山市	①成田 賢一 ②小磯 香 ③東川 雅弘 ④田辺 高士 ⑤早瀬 充 ⑥石田 億之	①移動販売事業者／食品ロス削減活動 ②移動販売事業者／英田上山棚田団 ③移動販売事業者／集落支援員 ④移動販売事業者／合同会社あば村 ⑤株式会社ナンバ ⑥移動販売事業者／NPOほほえみの郷トイトイ	おもしろの移動販売事業者サミット「移動スーパー大集合」	令和4年11月25日(金)
事 業 内 容				事 業 成 果		
おもしろの移動販売事業者「クレド」を紹介した後、6名の講師から実際に移動販売を実施してきた中で、移動販売が買い物以外にもたらす効果についてリレー形式で説明いただいた。特に福祉的な見守り機能についての言及があり、地域の高齢者向けサロンとの連携や生活支援との接続について取組方法をお話いただいた。全体の議論を踏まえて、持続可能な取組へとつなげていくには、行政、福祉、地域、企業などあらゆる分野との横断的な連携が必要であることがわかった。また、移動販売事業者として笑顔で接する大切さも学んだ。				地域のリーダーや自治体職員が参加者の多数を占めた。地域で数が減っている移動スーパーの公共的な機能に関する理解が深まり、認知度の向上につながった。また、実際に登壇された6事業者が移動販売車の出店を行ったことで講演内容をより鮮明にイメージさせることができ効果的であった。移動販売事業者同士や行政職員と移動販売事業者の交流により、現状課題について話し合うことや、情報共有を行うことができた。		
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
56	鬼無里地区住民自治協議会	長野県長野市	上村 靖司	長岡技術科学大学教授	除雪安全対策塾	令和4年11月13日(日)
事 業 内 容				事 業 成 果		
【講演内容】 ・除雪作業の事故の現状と対策について ・除雪作業の安全対策について ・安全対策用具の紹介と使い方について				屋根の除雪作業を行う際の危険性や安全対策の必要性について理解いただけた。また、命綱を装着するために必要なアンカーについても理解していただけた。除雪作業を行う際の労働環境整備に伴う法律の見直しがされる中、一般の人々の意識が追いついていないことについて、参加した皆さんから啓発活動の必要があるとの意見も出されるなど、有意義な研修会となった。		
NO	団 体 名	所 在 地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実 施 日
57	ながの協働ねっと	長野県長野市	①寺田 ユースケ ②波多腰 遥 ③寺澤 順子 ④亀垣 嘉明	①CAMPFIREキュレーター ②YoutuberCAMPFIRE・READYFORキュレーター ③ソーシャルライター ④個人	「寄付」から始まる新たな可能性を探そう。 ～クラウドファンディング・バースデー寄付の事例から考える～	令和4年12月8日(木)
事 業 内 容				事 業 成 果		
第一部「バースデーネーションを知ろう」 経験者からバースデーネーションとは何か、実施した思いや葛藤を聞きました。プレゼントを贈るつもりで社会貢献ができる、社会課題を知ることができたことに感謝の言葉を貰う場面もあった。第二部「クラウドファンディングを知ろう」 基礎知識から事例まで幅広くお話しいただいた。講師の波多腰遥氏は「クラウドファンディングはやればお金が集まるものではない。その目的や支援者との関係性を考えるいい機会にして欲しい」とアドバイスがあった。また、講師の寺田ユースケ氏は「与えてもらうことばかり考えると、信頼関係が崩れる。自分がこの人に支援を返せるのか、与えられるかという視点をもって望んで欲しい」とエールがあった。				参加者はバースデーネーションについては聞いたことがなく、今回初めて取組や事例について聞いたという人ばかりだった。クラウドファンディングに関してもこれから実施したいと考えている方がいたため、改めて実施する際の仕組みや注意点を知ることができた。市民参画の方法として、バースデーネーションもクラウドファンディングも積極的に取り組んでいくことが、寄付文化醸成・活発な市民社会につながると感じた。		